

生涯学習の拠点として特に必要なもの	検討する際に留意する点	具体的な内容	どのような施設・設備が必要か
・踊り、スポーツの研修を目指す場所	・具体的な踊りとスポーツの種類 ・具体的な研修（目指すこと）の内容		
・泳ぎを練習	・具体的な泳ぎの種類 ・具体的な練習の仕方		
・技術的失業を防ぐ手段を学習できる	・技術的失業とは何かの説明 ・手段だけが防ぐ手立てであることの判断理由		
・学習に限定せずに、防災、減災など複合した機能を持たせる	・防災・減災の範囲（例えば、個人で行うことか、地域で行うことか等）		
・必要な情報が得られる場	・誰にとって何のために必要である情報なのか		
・同じような悩みや学習したいことを持っている人に出会える	・不特定多数が悩みや目標を共有しあえる具体的な手段は何か（出会いは対面か、オンラインか、あるいは相談員を介在させるのか等）		
・学びたいこと、知りたいことについて誰もが気軽に入れる場	・気軽にとという観念にある範囲は、対面か（24時間？8時間？）、電話やネット相談も含めるのか		
・老若男女、国際人のいる場	・国際人とはどのような人なのか（留学経験者？母語以外の言語が話せる人？海外在留経験者？）		
・クリエイティブな場	・クリエイティブとは、誰にとって、どのような状態であるのか（判断水準は何か）		
・学びについて相談できる	・学びの範囲は、誰を対象に、どのようは範囲なのか（受験や資格試験も含むのか、技能ならその範囲など）		
・学びたい人と学び返してできる人をつなぐ	・学習要求の把握と、提供の把握はどのような手段なのか（対面で相談か、オンラインか、あるいは仲介者を介在させるのか等）		
・そこに行けば生涯学習のすべてがわかる	・生涯学習の「すべて」が表す範囲はどのような項目か		
・興味があるテーマについての講演会が行われている	・不特定多数の市民がイメージする、其々の興味はどのように把握するのか		
・アドバイスをもらえる場	・何についてのどのような要求に基づくアドバイスかを判断することは可能かどうか		
・市民に親しまれ来場経験の多い施設	・来場数の把握には、ある程度、市民の情報を提供してもらう必要がある。情報提供の手段はあるか（施設利用には市民カードの提示を要求するなど）。		
・独自で収益をあげる事の出来る施設	・具体的な収益事業の業務範囲、収益事業に割くリソースなど		
・最先端の取り組みができる施設	・常に最先端の取り組みを更新するべきかどうか（コストはどの程度かけてよいのか）		
・大規模な企画を実施できる施設（インフラ、人材、能力）	・「大規模」はどの程度の量なのか。例えば参加者数が市民の1%か3%か、Youtubeで配信するのかなど		
・一番集客力のある施設	・比較する施設群はなにか（プラッツや文化センター？）。何を基準にするのか（物理的なキャパシティ、イベントの参加者数、企画展など）		
・講座等を通じた学習機会を提供し、青少年や地域住民全体の人間力の育成をするため、学校・家庭・地域の連携交流の拠点	・具体的に連携交流することの状態は何を表すのか。		
・高齢者から子供までが利用できる「学習の場」	・具体的に年齢層ごとの学習施設配分はどうするのか。エリアで分けるのか時間帯で分けるのかなどの運用の仕方はどうするのか		
・社会教育のあり方として人づくり、つながりづくりという学びと活動の好循環を生ませる拠点	・人が作られた状態、つながりが作られた状態は具体的にどのように把握すればよいのか		
・縮小化社会の施設として、生活支援の動きも有すべき、例えば教育ボランティアの活動の場である等	・具体的に生活支援が示す範囲は何か、教育ボランティアはいるのかどうか、あるとしてその管理と運営はどうするのか		